

船舶事故調査報告書

令和4年3月23日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和3年9月9日 15時15分ごろ
発生場所	沖縄県伊是名村東方沖（伊是名島） 仲田港東防波堤灯台から真方位052° 1.3海里付近 （概位 北緯26° 56.3′ 東経127° 58.5′）
事故の概要	プレジャーボートまる富丸は、航行中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和3年9月13日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート まる富丸、5トン未満（長さ5.85m）
船舶番号、船舶所有者等	296-12115 沖縄、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	主機等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風速 約3.4m/s、視界 良好 海象：波高 約0.6m
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者3人を乗せ、伊是名村仲田港を出航して同港北東沖の釣り場に到着し、主機を停止して錨泊して釣りをを行い、何度か主機を始動して釣り場を移動した後、帰航を開始した。</p> <p>本船は、帰航中、船長が、本船の速力が上がらないと思っていたところ、船体後部の喫水が上昇し、両舷船尾部外板にあるスカッパから海水が後部甲板に逆流して浸水したのを認め、その後主機が停止した。</p> <p>船長及び同乗者3人は、バケツで浸水した海水を汲み出したものの、排水作業が浸水量に追いつかず、本船が右舷方に転覆して海中に投げ出され、船底を上にして浮かんでいる本船に這い上り、携帯電話で村役場に連絡を行い、連絡を受けた同役場職員が118番通報を行った。</p> <p>船長及び同乗者3人は、来援した僚船により救助され、本船は、来援した別の僚船にロープで繋がれえい航されたが、途中でロープが切断して沈没した。</p> <p>本船は、本事故当日の出航前までに機関整備業者による主機の開放整備が行われており、同整備終了後、船長が試運転を行い、異常がなかった。</p> <p>船長は、主機の開放整備が行われていたにもかかわらず、甲板上が浸水している状況を見て、冷却海水系統配管であるゴムホースを主機</p>

	<p>の海水入口及び出口接続部で締め付けている金属製ホースバンドが振動等で緩み、同接続部からゴムホースが外れたと思ったが、本事故発生時、機関室のハッチが閉められており、機関室内を確認する間がなかった。</p>
分析	<p>本船は、航行中、機関室において、振動等で冷却海水系統配管であるゴムホースを締め付けていた金属製ホースバンドが緩み、機関室に海水が流入したことにより、喫水が上昇して両舷船尾部外板にあるスカッパから海水が後部甲板に逆流して浸水した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、本事故発生日の出航前の機関整備で、主機に接続されていた冷却海水系統配管であるゴムホースの取り外し、取り付け作業が行われ、航行中、振動等で同ホースを締め付けていた金属製ホースバンドが緩み、機関室に浸水した可能性があるが、本事故発生時、機関室のハッチが閉められており、機関室内を確認する間がなかったことから、冷却海水系統配管の接続の状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、航行中、機関室において、振動等で冷却海水系統配管であるゴムホースを締め付けていた金属製ホースバンドが緩み、機関室に海水が流入したことにより、喫水が上昇して両舷船尾部外板にあるスカッパから海水が後部甲板に逆流して浸水した可能性があると考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主機の冷却海水系統配管において、ゴムホースの接続部のホースバンドは、主機の開放整備等で締付けを緩めてゴムホースを取り外した後再び取り付けた場合、増し締めを行うこと。</li> <li>・ 航行中、機関室内に海水の流入がないか、目視で確認すること。</li> <li>・ ホースバンド類は、2本以上で締め付けることが望ましい。</li> <li>・ 予備のホースバンドを備えておくことが望ましい。</li> </ul>